

# 祝卒業

題字  
渡邊 翠  
(2年1組)



第 90 号

天高育友会報  
平成29年3月1日発行  
発行 県立天草高校育友会  
編集 天高育友会文化広報委員会  
印刷 ワタナベデザイン

## いつも感謝の 気持ちを持って



育友会会長  
津田 博之

3年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

期待と不安を胸に抱きながら向かえた入学式で新たな友人や先生方と出会い、学業や部活動、学校行事を共に過ごした3年間は皆さんにとってかけがえのない時間となったことでしょうか。特に今年度は4月に発生した熊本地震、6月の集中豪雨など自然災害の怖さを体験し、普通に生活をおくるのが如何に有り難いことか、当たり前の日常生活に感謝すること学んだ1年間ではなかったでしょうか。

学校創立120周年という特別な時と出会い、電波時計を発明した素晴らしい先輩がいることや社会で活躍されている先輩方が沢山いることを知った良い機会だったでしょう。

良き伝統が受け継がれるということは目上の人を敬い、新しいことに挑戦することです。昔からあるものを大切にしながら今の時代に合った方法を構築していくことで伝統は繋がっていきます。まさに皆さんは、部活動や体育大会、文化祭など学校生活の全てにおいて立派に実践し、後輩に引き継ぐことができました。私たち保護者も、心身ともに大きく成長した皆さんの姿を頼もしく感じています。親は勿論ですが、苦業を共にした同級生や先生方、同窓会の皆様、地域の皆様はこの日もみんなを見守って下さいますよ。

これから皆さんはそれぞれの道を歩んで行きますが、立ちふさがり大きな壁も多々あるでしょう。その壁は天草高校で培った感謝の気持ち、謙虚な心、立ち向かう勇氣があれば必ず突破できます。若い皆さんには無限の可能性があります。自分自身の夢の実現に向かって、何事にも積極的に挑戦し、行動してください。益々大きく飛躍されることを心よりお祈りしています。

最後に、前田校長先生をはじめとする先生方ならびに保護者の皆様には、育友会活動への心温まる力強いご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 「笑う門には 福来たる」



校長  
前田三千治

無事卒業の日を迎えた3年生の皆さん、保護者の皆様にお祝いを申し上げます。すともにも、保護者の皆様にはこれまで本校の教育活動を御支援いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、三綱領「正大」「剛健」「寛厚」のもと、また教育スローガン「求学志成」を胸に過ごした3年間は短く感じているでしょうか、上達する喜びを体験したスキーの修学旅行、長く苦しめたマラソン大会、みんなで燃えた体育大会や盛り上がった文化祭など印象に残っている行事や高校総体・総文祭など自分の歩いた後には高校の思い出が数多くあるでしょう。高村光太郎は、「道程」という詩のなかで「僕の前に道はない 僕の後ろに道はできる」と詠っていますが、これからの人生を誠実に、理想を求めて前進してほしいと思います。ただ、楽しい時だけでなく、「人生山あり谷あり」だから、そこは開き直って明るく笑いの多い人生にしてほしいです。魚釣りをしているとき合点とか潮時と言われるおもしろいようによく釣れる時間帯があります。人生も同じですが、うまくいかない時ほどうまくい話にだまされず着実に生き方をしてください。最後にちょい話をプレゼントします。

「二日の野良仕事を終えた若者が家路を急いでいると、沼で釣り糸が絡んで苦しんでいる首の長い大きな白っぽい鳥がいたので助けてやった。次の朝早く、玄関を叩く音がしたので出てみると若い娘が立っていて、「以前あなたに助けられたことがあったのでぜひ恩返しをしたい。」と言った。若者が「これはもしや・・・」と思ったとき、娘は「機織りをして恩返しをしたい。糸が必要だが、これから町に買いに行くのでお金を貸してほしい。」と言った。若者は、反物をいっぱい作ってほしいと思いたくさんのお金を渡した。しかし、娘は夜になっても帰ってこなかった。次の日も・・・近所の友達が、相談があると言った。自分達で話を聞いて愕然とした。自分達がソルと思つたのは実はサギだったのだ。」

## 社会に出てからも 伸び続ける人に



3学年主任  
井上 博登

『天草高校は「正大・剛健・寛厚」の三綱領と教育スローガン「求学志成」をもとに、社会に出てからも伸び続ける人を育てる学校です。』この言葉は、3年前の合格者召集の場で当時の管理職の先生が話された言葉です。入学式の最後に私が保護者に対して話した内容にも繋がり、私の中で3年間大切にしていた言葉です。

現代社会には、最先端が5年後には最先端ではなくなるという現実があります。120周年記念講演の中で平田様が話された「分進秒速」で物事を考えなければならぬ時代がやってきているのです。また、4月に起きた熊本地震のように日本や世界各地で予測できない災害が起こり得ることも忘れてはなりません。そして、本校生も数多くのボランティアに参加しましたが、今もなお復興に向けた取り組みが盛んに行われており、災害を事前に防止する研究も随時行われている現実を知っておく必要があります。

そのような激流の中にある今の社会において私たちは何を大切にしていかなければならないのか。私が君たちと過ごした3年間で考えたこと。それは「生き方」という一本の杭が必要になってくるということです。私たちが社会に対して何ができるのか。それを可能にするには何を学び実践していくべきか。解決不可能な問題に対して、どう結論付けていくべきか。二者面談や学年集会、受験勉強における面接指導の際などに、各自が深く考えたのではないかと思います。

そして同時に知識・技能だけでは何事も成すことはできないことも、各種行事や受験を通して知ることができました。正しく清々しい心、強く逞しい心身、広く優しい心、求めて学び志を成す姿勢などの在り方。多くの物事に刺激を受け成長する青春時代に体験した授業や部活動、学校行事やクラス活動の一つ一つが各自の生き方の礎となるはずで、雪に耐えて梅花麗し。卒業おめでとう。今後の一人一人の飛躍に期待しています。

保護者の皆様におかれましても、学年委員長を中心に、体育大会や文化祭パサー、マラソン大会の補助を初めとし、3年間で計5回の保護者学習会の開催など数多くのご協力をいただき感謝しています。朝課外前のお弁当作りもありがとうございました。今後のお子様の活躍をお祈りします。